



国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ/<https://www.fil-idf.org/publications/ファクトシートより>

IDF Factsheet 008/2019

IDF ファクトシート 2019年10月

IDF カントリーアップデートの要約 - 2019年10月

IDF 酪農政策・経済常設委員会 (SCDPE) の 17 か国からの委員ら¹が、2019年9月までの6か月間を取材した国別アップデート (最新情報) を提出した。

このファクトシートは、ピーター・ドーソン Peter Dawson (イギリス) 氏が作成した国別アップデートの評論から、主な調査結果を強調しており、イスタンブールで2019年9月21日に開催された SCDPE 会議で常設委員会に提示された。

¹オーストラリア、ブラジル、デンマーク、カナダ、フランス、ドイツ、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、南アフリカ、スイス、イギリス、アメリカ

【生乳生産】

ほとんどの国では生乳生産量が増加した。大陸ヨーロッパでの生乳生産の動向は乾燥した天候のために弱かったが、アイルランドとイギリスでは好調だった。アメリカでは生産量は昨年よりわずかに低下したが、乳固形分に関しては増加した。ニュージーランドでは生乳生産量は順当に増加したが、オーストラリアでは乾燥した状態が原因で飼料価格が高くなり、結果として乳牛が殺処分された。

【農家庭先乳価】

乳価動向は概ね安定または上昇したが、例外であるイタリアの価格は、生乳不足が供給の競争をもたらした欧州連合 (EU) とオーストラリア、そして価格が 12% 上昇したアメリカとは乖離していた。他の注目すべき例外は、生乳価格がそれぞれ 5.6% および 3.9% 低下したアイルランドおよびニュージーランドだった。

【卸売および小売乳価】

バター脂肪とタンパク質の評価の相違は、バター価格の下落および、特に EU の在庫解消後に SMP が回復したことにより、バランスを取り戻し始めた。チーズ価格は、ほぼ安定していた。

【消費動向】

10 か国が提供した消費動向データは、すべての国々でチーズ消費量の増加を示した。また、大半の国々では、液状乳の消費量の減少を報告した。その他の製品のパターンは、混在していた。

【貿易政策】

貿易政策の不確実性は、短期間では乳製品市場に最大のリスクをもたらし、ブレグ



国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <https://www.fil-idf.org/publications/> ファクトシートより

ジット、予測されるボーイング・エアバス論争後の米国の報復関税に対する継続的な不確実性、および米中関係の継続的な緊張をもたらした。カナダ、メキシコおよびアメリカの USMCA 協定（新 NAFTA）は、今後数ヶ月でアメリカとカナダによって批准される見込みである。

【環境】

多くの国々の政府は、温室効果ガス排出について「ネットゼロ」を公約し、農業部門（アイルランド、オランダ、ニュージーランド）への排出削減目標の設定を含む立法枠組みを採択した。これは、企業や業界主導のイニシアチブによって補完された。アイルランドでは、農業による公約の水準を決める「限界削減コスト曲線」の決定のための活動が進行中だった。

【ビーガンと代替品】

ビーガン運動と植物性飲料は、多くの国々でフードプリント（食品のフットプリント）を増やしている。植物性の乳製品代替品のマーケティング活動は、メディアに表れたアンチデーリーのメッセージとともに増加した。

乳業によって請願された後、米国食品医薬品局は模造品による酪農乳業用語の使用に対するコメントを求めた。

【栄養】

信頼できる機関による栄養に関する勧告は、見解の相違を示した。カナダの食事ガイドは植物からタンパク質食品をより頻繁に選択することを推奨し、フランスの勧告は1日当たりの乳製品摂取回数を3から2へ減らすことだった。一方、オーストラリア心臓財団は低脂肪乳製品に関する推奨を削除した。

食品表示のイニシアチブに関する政府による重要な活動が、いくつかの国々から報告された。

【家畜の福祉】

業界および政府主導の基準の設定および検査に関する活動が、生乳生産システムのさまざまな側面を強調するための業界によるさまざまなマーケティング活動とともに、多くの国で報告された。

【まとめ】

全体的な市場動向は、緩やかな供給の伸びと安定した需要により、概して安定していた。貿易政策リスクは、短期的には著しかった。長期的な環境上の制約が重要になってきた。ビーガニズム（完全菜食主義）と植物代替品からの挑戦は、増加し続けた。

翻訳：J I D F 事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。